

令和4年度「一般選抜前期日程試験（個別学力検査・英語）」講評

ねらい

前期試験では、大学で求められる基本的な学力を試すことを念頭に、共通テストとは異なる視点で総合的な英語力を問う。具体的には、長文の内容を素早く読み取り、その要点を英語で簡潔に表現する力や、未知の語彙について文脈中で説明されている箇所を的確に理解する力(或いは、語彙の説明がなされている箇所を的確に理解する力)、自分の考えを英語で論理的に表現する力を試すことをねらいとしている。

全体講評（Ⅰ・Ⅱ）

「ねらい」にある「要点を英語で簡潔に表現する力や、未知の語彙について文脈中で説明されている箇所を的確に理解する力」を試す問題である。記述式問題の解答においては、問題文の意味を読みとれていない解答や、正解に該当する箇所をただ抜き出しているだけの解答、完全な文（主語、動詞を伴う文）で答えられていないものなどが多かった。正解を導き出すには、本文だけでなく問題文もよく読み、問いに対応した形に本文の表現をパラフレーズさせて答えることが重要である。日頃から主語と動詞の対応などを考えながら、英文の問いに対して適切に対処する練習を行ってほしい。また、本文中の難しい単語の意味に関しては、ある程度前後の内容から予想することができる。接続詞、形容詞、副詞などに着目して、文の大まかなニュアンスを把握することを心がけよう。

各設問（Ⅰ・Ⅱ）

Ⅰ

- 問1 単語の訳がよくできていない。interaction や distort は高校必須単語であるので、語彙力をさらに強化する必要があると思われる。
- 問2 英語1語で答えるようにという問題指示に従わず、英語3語で答えている回答が散見された。問題文はよく読むように努めるのが必要である。
- 問3・問5 並び替えの問題である。make up of という熟語や、過去完了形がよく理解できていない回答が多く見られた。熟語、文法力の向上にも努める必要があると思われる。
- 問4 問題文では、17世紀に新聞に何が起き、そのため（17世紀に）新聞はどのように成長したかを尋ねている。問題文に grow があるが、本文でも使われており（grew bigger and more important in the 17th century）、これがヒントになっている。問2と共通するが、問題文をよく読む必要がある。
- 問6 概ね8割の正解率であった。「テレビが普及して新聞にとってどのようなことが起こったか」という趣旨の問いに対して、理由を書いた答案が幾つか見られた。問の英文が理解できていないと思われる。

- 問7 和訳問題。約6割の正解率。9割の受験生が正解、または近いところまでは正解している。しかし、不正解者の多くは文中の close と merge という単語に苦戦している。この文中の close は動詞であるが、不正解者は形容詞の意味を持ち込もうとしている。難しい文型ではないが品詞の判断ができていない。形容詞の close に気をつけようとして学習して、本来の動詞の用法を忘れていると感じられる。
- 問8 代名詞 It の示す実態を問う問題である。約7割の正解率。It の指し示しているのは、前文の the biggest-selling English language newspaper である。文脈で考えれば容易に分かるものであるが、前文に関心がないというか、It を含む文の中で考えた答案が意外に多かった。新聞というコアな実態に対して、国や地域と答えたものが多く見られた。
- 問9 代名詞 These の示す実態を問う問題である。約7割の正解率。問題に using eight English words とあり、不備のある解答の多くは、8単語という語数の縛りがあるのを無視したものであった。問いを慎重に読み、何がどのように問われているのかを読み取る必要がある。文脈上容易な問題である。ここで問われている These も前文を見れば容易に解決できる。most newspapers provide facts and messages about a variety of topic とあり、下線をひいた部分で8単語である。英語の文として答えようとして、8単語制限を無視してしまった可能性はあるが、問題に「完全な文で答えよ」という指示はないので、単純に下線部を抜き出せば正解となる。
- 問10 この問題も容易な部類である。約7割の正解率。しかし、what kinds of news does nearly every paper include? という問いの文構造が理解できていないで、英文解答をしているものが見られた。「どのような種類のニュース」を問われていて、それは把握できているのだが、問いの文の主語は nearly every paper で述語動詞は include であるので、問いの解答の文としては It (Nearly every paper) includes … で始まらなければならない。ところが、include に3単元の s がついていないとか、助動詞の does を代動詞として使っている、つまり what kinds of new を主語と見立てているのである。完全な文章での正解は It includes international news, national news, and local news. となる。しかし、前問と同様「完全な文で答えよ」という指示はないので、上記の下線部分だけでも正解である。また、形式的には異なっているが意味的には、International news, national news, and local news can be found in nearly every paper. という本文中の文を抜き出したものも正解となる。

II

問1

- (ア) 完全正解は少ないものの、意味は概ね理解できていたようである。しかし、わかった気になっても、それを文字化して訳すとなると別問題である。alarming の意味、recycled による clothing and footwear の後置修飾、コンマに続く分詞構文 meaning that … の意味などの理解が、出来・不出来の分かれ目となった。ただ、最も驚いたのは、1.7 million (170万) を正しく訳した解答の異常な少なさであった。受験生には、まずは単文レベルでも構わないので、理解したことを文字化して確認する訓練を行なって頂きたい。

- (イ) 節₁と節₂が等位接続詞 but で結ばれた単純な文構造である。しかし、節₁の everyone を「皆さん」と呼びかけていると思い込んで、主語であることに気づいていない、また、picture を名詞「写真、絵」だと思い込んで、動詞「心に描く、想像する」であることに気づいていない受験生が多数いた。また、節₂の主語 most を副詞「最も」だと思い込んで、代名詞「ほとんどの人々」であることに気づいていない受験生も少なからずいた。このようなことから、完全正解を逃した答案が7割以上あった。基礎的な単語だから知っているという思い込みは要注意である。辞書を丁寧に読むことで、新たな発見につながり、英語学習に知的刺激が感じられるだろう。受験生には、英文を読んで理解したことを文字化する作業の中で、自分の英単語の知識に磨きをかけて頂きたい。
- (ウ) 意味は概ね理解できていたようである。しかし、ここでも、次の2つの語句の理解が出来・不出来の分かれ目となった。まず、make up である。これを「作り上げる」という直訳しても、受験生がこの英文の意味をきちんと理解しているのか伝わらない。辞書の例にも載っているが、数値を目的語として取るときは、「およそ60パーセントを占める」となる。もう一つは、副詞 worldwide 「世界中で」である。インターネットの URL で使われる www の最初の ww は、この単語に由来する。身近なところに英語の学習のネタは、想像以上にたくさんあると言えるだろう。
- (エ) 完全な正答は少なく、6～7割の点をつけた解答が多かった。和訳や記述問題は部分点があるので、わからないところがあっても何らかの解答を書くことが大事である。以下解説。下線部前半の文の主語は Original clothes、動詞は get である。sold in stores は過去分詞が Original clothes を形容詞的に後置修飾した形である。この sold を主節の動詞として訳しているものは減点した。また、英語の original は日本語の「オリジナル」よりも広い意味を包含しており、ここでは「独特の」ではなく、「最初の」「元の」の意。他にも do not all get purchased のところが部分否定であることや、get が「～になる」の意であることを理解できていない解答が多く、全体的に後半の文よりも前半の文の方に間違いが多かった。後半の文は“out of season”「季節外れの」が分かっていない解答が散見された。but 以下の many は many of them [“out of season” clothes]の略である。主語をとり違えて「多くの人」などと訳している解答が多かった。

問2 空所に適語を入れる問題。前後の文脈から判断することが求められる。全体的に5, 6割ほどの正答率であった。以下解説。

- (1) 空所の前で these items [plastic wastes]の量の話、後でゴミとして出される clothes and shoes 量の話をしている。比較の話をしていることが予想できるので、正解は(D)
- (2) 空所の直後の従属節は「機械で衣服を洗う()」、その後の主節は「プラスチックの微粒子が上水道に流れ込む」の意。(B)～(D)はすべて逆接を表すが、この文脈には合わない。(A)が正解。
- (3) 空所の直後に動詞 allows があることに注目。接続詞である(A)と(D)は直後に主語を

必要とするので不適。また、(B) の what を入れた場合、前の節とつなぐ接続詞が別に必要になるので不適。よって関係代名詞の非制限用法を作る (C) の which が正解。

- (4) 疑問文で読者に問題を提起し、その後その回答を述べる手法は英語の論文やエッセイなどでよく見られる。そこで第9、10段に着目すると、リサイクルを促進するためのスウェーデンやクリーン・テクノロジー会社の取り組みを紹介している。これらは衣類の廃棄の問題の解決策の例と言えるので、正解は (D)。

問3～問5

本文で使われている単語の同義語を答える問題。全体的に正答率は6割程度であったが、特に問5は正答率が低かった。こういう問題は単語を知っているかどうかではなく、前後の文脈から意味を推測できるかが問われている、一種の読解問題である。以下解説。

- 問3 太字を含む第3段最終文は、「これらの小さな微粒子は最終的に我々の食糧供給に戻ってきて、人間や野生動物に()される」の意。food supply「食糧供給」の話をしているので、absorbed「吸収される」が最も適切。
- 問4 太字を含む第10段第1文の in an effort 以下は、「それら(合成プラスチック)を埋立地から()し、織物のリサイクルの循環の中に持ってこようとする努力の中で」の意。要は埋立地に廃棄されて何の役にも立っていない合成プラスチックを有用にしようとしているという文脈なので、正解は switch「(方向を)変える、転じる」が最も適切。
- 問5 太字を含む第11段第1文は、「政府や大学、ブランドや組織にとって、繊維のごみによって地球にもたらされた被害を取り戻すための手段を計画し、()するのは今なのだ」の意。design「設計する、計画する」が先にあるので、mobilizeの意味は設計や計画を行った後にすることであると推測できる。よって正解は (C) start to use である。
- 問6 指示語が指す内容を日本語で答える問題。正答率は5割程度で低かった。This can't continue.は「このことは続いてはいけない」の意で、can'tは禁止を表す。よってThisの内容はネガティブな内容が入ると予想できるが、「各国が繊維のごみを減らすために努力していること」などポジティブな内容を書いている答案が多かった。指示語を含む全体を考慮することが大切である。本文全体を読めばわかるように、続いてはいけない事態とは「衣類から出る繊維ごみによって地球の環境が汚染されていること」である。
- 問7 指示語が指す内容を英語で答える問題。指示語 This を含む第5段第5文は「このことは…を意味する」となっている。つまり前文の内容をより分かりやすく説明したものと分かるので、同段第4文をそのまま答えればよい。7～8割ほどの正答率であった。
- 問8 問題文は「本文で論じられている問題を改善するためにあなたが日常生活で何ができると思いますか？」の意。細かい文法ミスでの減点はあるが、“I will give my old clothes to my little brother.”などと衣服の廃棄を防ぐための行動が書かれているものは正解とした。ただし、地球温暖化などの衣類の廃棄以外の環境問題への対策を書いているものや、個人の日常生活の範疇を超えた活動に関しては問いの趣旨に合わないので誤答とした。

全体講評 (Ⅲ)

総評

昨年度に引き続き 100 語程度のパラグラフを書くという問題が 2 問出題された。これは、限られた時間の中で複数のトピックに対し、英文パラグラフの基本ルールに従って、簡潔かつ論理的に自分の意見を英語で表現する力を見るものである。トピックの難易度は昨年度と大きく変わるものではないと思われる。1 つの長いエッセイを書くよりも、100 語程度のパラグラフを 2 つ書く方が取り組みやすかったせいか、無回答は殆ど見られなかった。今年度の答案に共通して見られた問題点と、その対策法を以下にまとめる。

まず例年指摘されるように、問題文をしっかりと読まないために失点しているケースが多い。トピックをきちんと理解していなければ、いくら沢山英文を書いても的外れになってしまう。例えば Topic 1 では“miscommunication”に関する自分の経験を記述することが求められた。しかしこれを「(語彙) 知識の不足」や「他者とコミュニケーションを取らない事」と誤解している例が複数見られた。更には“miscommunication”に関する経験ではなく、それが生じた時の対処法について一般論を述べている答案もあった。いずれの場合もトピックについて適切に論じたとは見なされない。したがって「問われていることは何か」をきちんと把握した上で書き始めることが非常に大切である。

またトピックに関連して、適切な英語表現を使うことも重要なポイントである。例えば Topic 2 では「もしインターネットがなかったら」という架空の状況について記述することが求められているため、仮定法を用いる必要がある。しかし仮定法をきちんと文章の中に組み込んで表現できていた回答は少なかった。文法学習を実際の表現活動 (Writing, Speaking) と連動させることで、自分のものとして確実に使える言語材料を増やしてもらいたい。

次に形式について、パラグラフを書くための英語の指示文 (Instructions for Paragraph Writing) があるにも関わらず、そのルールに従っていない答案も多く見られた。英文の場合、しっかりとしたパラグラフ構造 (Topic sentence, supporting sentences, and concluding sentence) があり、どんなに長い論文でもこの基礎構造は変わらない。大学入学後の Writing class でも必須の知識であるので、この形式を練習して、ぜひマスターしてほしい。

最後に語彙表現や文法に関して、非常によく見られる間違いは、「冠詞の使い方、主語と動詞の一致、単数・複数の区別、時制」に関するものである。基本的な文法知識があれば自分で見直して気づけるような間違いも多く見られたので、一旦書いた文章を見直す習慣を身に付けてほしい。また英文は基本的に「主語+述部」で構成されているという大原則を忘れず、まず簡単な短文をきちんと完結させることを確実にマスターしてほしい。その上で徐々に複雑な文構造に挑戦していく練習をすると効果的だと思われる。

答案作成についての解答例および講評

最後に採点者による解答例と講評を載せておく。自学自習や学校の授業で今年度の問題を使われる場合は、こちらの解答例を模範解答としてお使いいただきたい。

Sample answers

Topic 1: Please describe a day when you had a miscommunication with someone.

When I was a member of my junior high school's basketball team, I had a miscommunication with my mother. We were taking part in the Kyushu schools' competition, and we had to stay for two nights in Fukuoka. I asked my mother to help get my basketball kit ready for "6 o'clock on Friday". On Friday morning, I woke up at 5:30 AM and went to the kitchen, but nobody was awake and none of my kit was ready. I panicked, woke up my mother, and asked her why nothing was ready. She thought I meant 6 PM! I had to run to school with no breakfast. Next time, I will share my plans with my family more carefully!

Topic 2: One of the biggest changes to the way we behave and communicate has been the Internet. What do you think your life would be like if we did not have it?

If I did not have the Internet, I would have a lot of trouble doing things quickly. First, I use an app called Line to contact my friends. We use line for chatting, talking, and sharing schedules. Using this app, I can easily make plans to meet up with my friends even if it is late at night. Second, when I want to go to a new place, I can get directions easily. Without the Internet, I would have to decide several days before going, and then find a map at the library or bookshop. Clearly, my life would be very inconvenient if I did not have the Internet.

Comments

I have three things to mention. First, most people's basic grammar, vocabulary, and writing knowledge was good. Most people's writing was easy to understand.

Second. For both questions, several people misinterpreted the question. Paragraph one, many people did not understand "miscommunication". In question two, many people did not describe "your life", but made general comments about the world. In both cases, this has a small effect on the grade and if people write a full paragraph about a related topic, we can check their writing ability.

Third. I would like to see more effort to give clear, explicit details; for example:

1. I woke up early → I woke up early, before 5 AM.
2. I went with my friends → I went with my friends from my badminton club.
3. I use many apps → I use many apps, including Line for contacting my friends and Instagram for looking at fashion ideas.
4. My mother cooked my favorite meal. → My mother cooked paella, which is my favorite meal.